

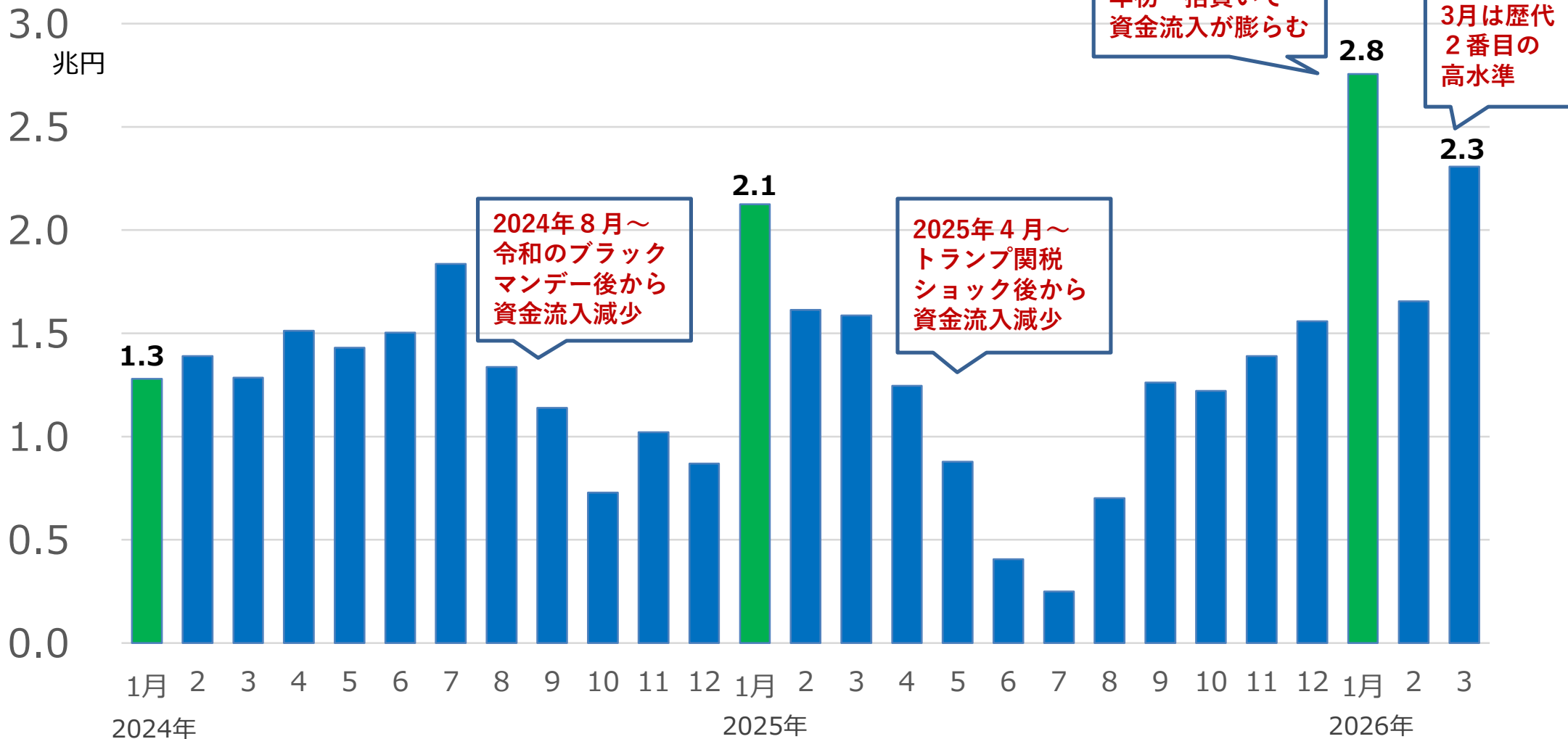
ラジオNIKKEI

マーケット・テラス資料 ～あしもとの投資信託市場～

国内追加型株式投信（除くETF） 月次資金流出入額の推移

2026年3月：2兆3,078億円の資金流入超（34カ月連続で資金流入超）と、26年1月に次ぐ歴代2番目の高水準。1兆円超えは7カ月連続。

国内公募追加型株式投信の月間資金流入額（2024年以降）

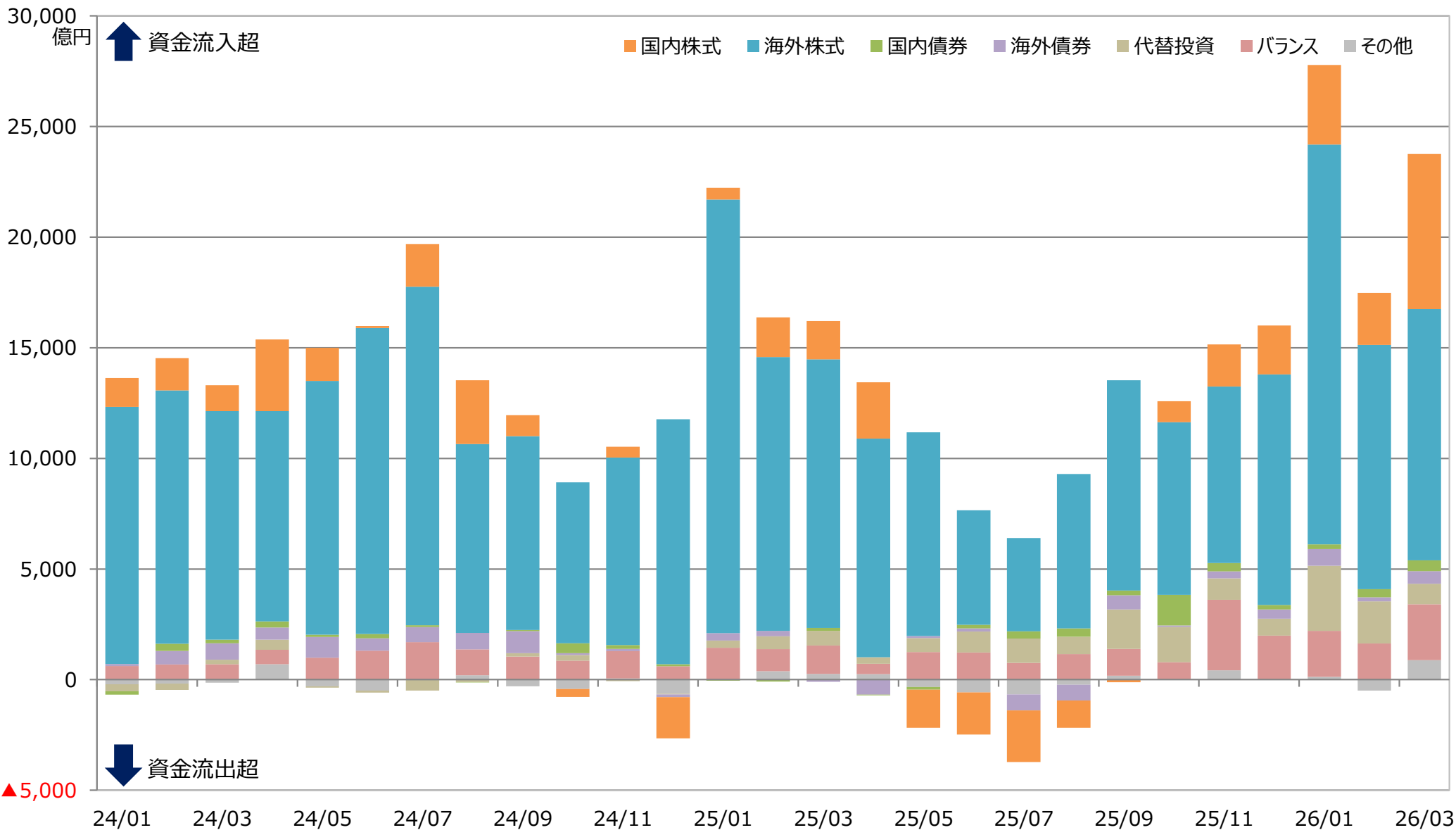


出所：QUICK資産運用研究所、対象は国内公募の追加型株式投信(ETFを除く)

国内追加型株式投信（除くETF） 分類別の月次資金流出入額

2026年3月は海外株式型の資金流入額が合計1兆1,355億円。国内株式型は約7,000億円の流入超、集計を開始した15年1月以降で最大。

国内公募追加型株式投信の分類別の月間資金流入額（2024年以降）

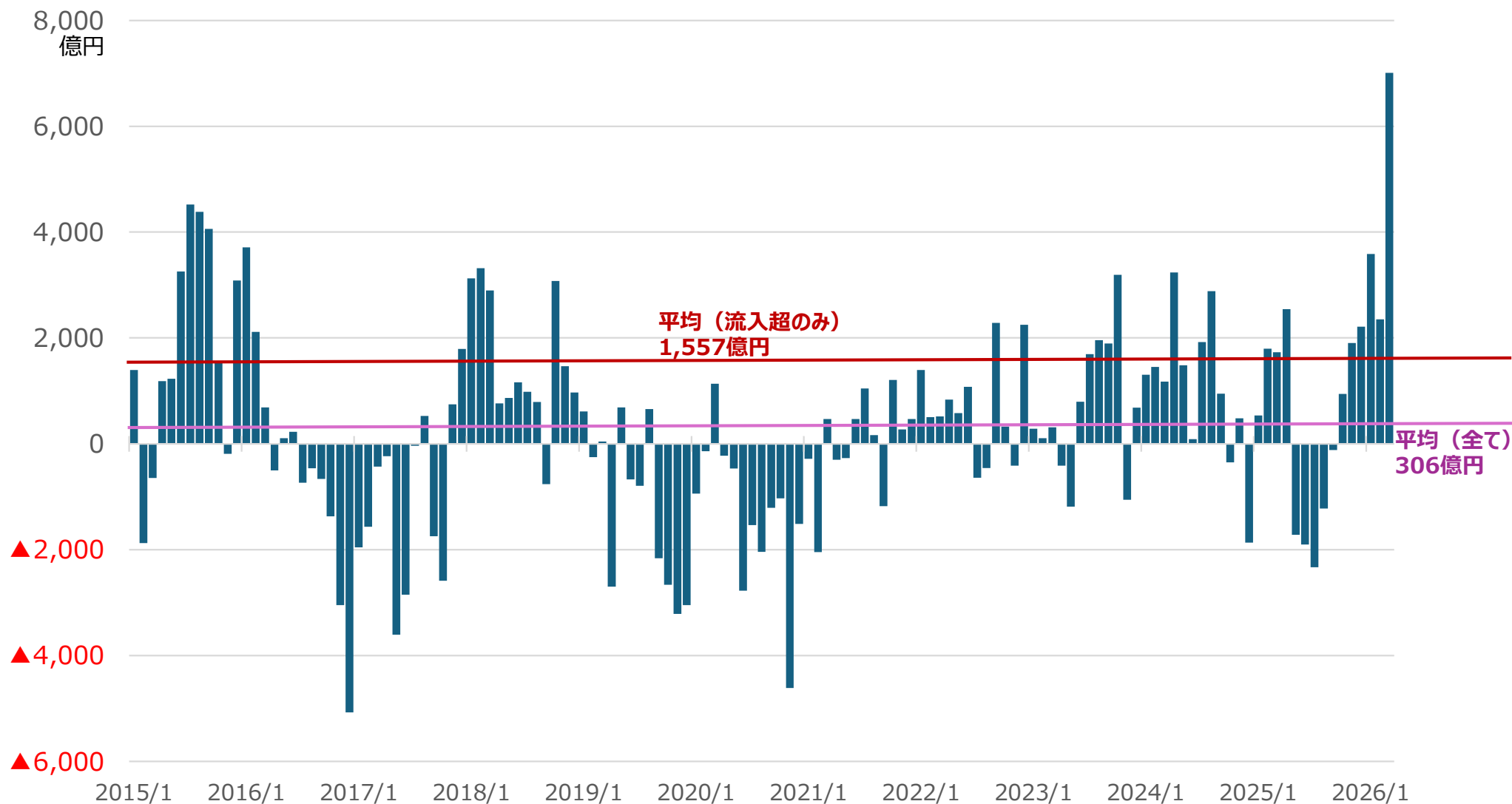


出所：QUICK資産運用研究所、対象はETFを除く国内公募追加型株式投資信託。▲はマイナス・資金流出、データは月次

国内追加型株式投信（除くETF）日本株ファンドの月次資金流入額推移

国内公募の追加型株式投資信託（ETFを除く）で、3月は国内株式型への資金流入額が合計約7,000億円と前月（2,353億円）の約3倍に膨らんだ。QUICK投信分類で遡れる2015年1月以降で最大となった。15年1月以降の月間資金流入額の平均は306億円、流入超の月だけを平均しても1,557億円にとどまり、海外株人気に押されて日本株ファンドは長年人気のないアセットクラスだった。

日本株ファンドの月間資金流入額の推移（2015年以降）



出所：QUICK資産運用研究所、対象は国内公募の追加型株式投信（ETFを除く）のうち、日本株を主要投資対象とするファンド。▲はマイナス・資金流出

国内追加型株式投信（除くETF）日本株ファンドの資金流入額ランキング

日本株で運用するファンドで1～3月に資金を最も集めたのは「eMAXIS Slim 国内株式（TOPIX）」で1,237億円と、唯一の1,000億円超え。「ハイベータ日本株フォーカス・ファンド」や「ノムラ・ジャパン・オープン」などアクティブ型にも資金が向かっている。短期売買で最も活用されている「日経225ノーロードオープン」は相場が急回復した4月に約542億円の資金流出超（24日時点）となっているが、日経平均連動型投信以外では資金流入の傾向が4月も継続している。

日本株ファンドの資金流入額ランキング（1～3月）

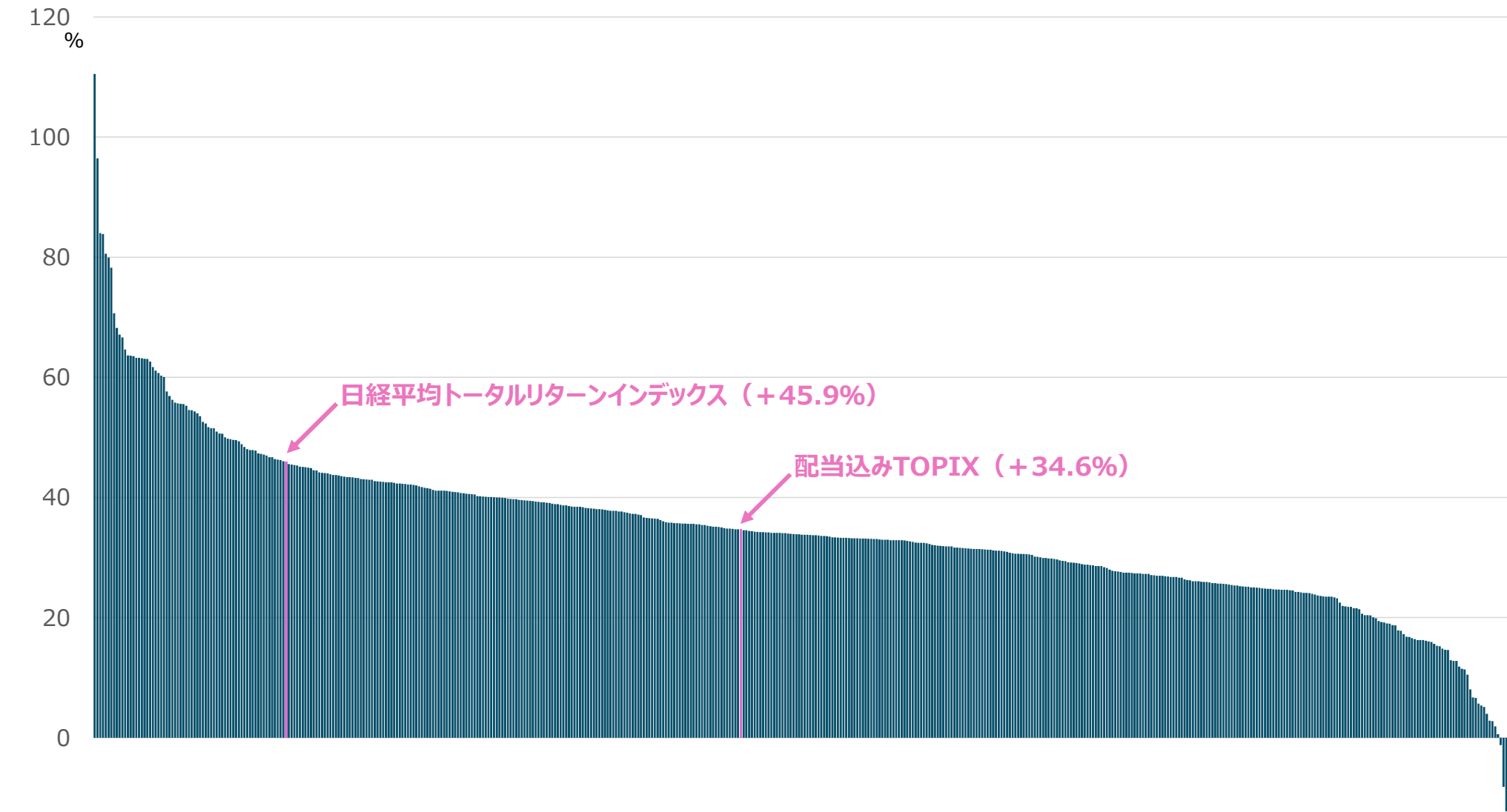
No	インデックス ／アクティブ	ファンド名称	資金流入 額(億円)	純資産 残高(億円)	リターン 年初来(%)
1	TOPIX	eMAXIS Slim 国内株式（TOPIX）	1,237	5,887	3.6
2	アクティブ	ハイベータ日本株フォーカス・ファンド	858	806	--
3	日経平均	eMAXIS Slim 国内株式（日経平均）	756	3,359	2.1
4	アクティブ	ノムラ・ジャパン・オープン	650	2,974	12.4
5	日経平均	日経225ノーロードオープン	442	3,975	2.1
6	日経平均	たわらノーロード 日経225	396	3,497	2.2
7	アクティブ	ダイヤセレクト日本株オープン	381	1,318	17.2
8	アクティブ	資本効率化フォーカス・ジャパン	357	982	4.3
9	アクティブ	日本好配当株投信	345	2,891	7.6
10	アクティブ	SBI日本高配当株式（分配）ファンド（年4回決算型）	324	1,833	5.9

出所：QUICK資産運用研究所、対象は国内公募の追加型株式投信（ETF、レバレッジ型を除く）のうち、日本株を主な投資対象とするファンド。純資産残高とリターンは2026年は3月末時点

国内追加型株式投信（除くETF）日本株アクティブファンドのリターン（2025年度）

日本株のアクティブファンドの2025年度の1年リターンを比較したところ、日経平均トータルリターンインデックスを上回ったファンドは508ファンド中69本（14%）で多くはないが一定数存在する。配当込みTOPIXを上回ったファンドは232本（46%）あり半数近にのぼった。

日本株アクティブファンドの1年リターン比較（2025年度）



▲ 20 出所：QUICK資産運用研究所、対象は国内公募の追加型株式投信（ETF、レバレッジ型、為替取引のある通貨選択型を除く）のうち、日本株を主な投資対象とするアクティブファンド。リターンは分配金再投資ベース、▲はマイナス

国内追加型株式投信（除くETF）日本株ファンドのリターンランキング（2025年度）

日本株で運用するファンド（残高100億円以上）の1年リターン（2025年度）をランキングすると、上位は半導体関連株に投資するファンドが並ぶ。4位の「情報エレクトロニクスファンド」、6位の「小型ブルーチップオープン」、9位の「ノムラ・ジャパン・オープン」は野村アセットマネジメントの福田泰之チーフ・ポートフォリオマネージャーが運用するファンド。7位「ロボ・ジャパン（円投資型）」も小型ブルーチップオープンの共同運用担当者の外木賢人ポートフォリオマネージャーが運用。これらは、日経平均株価やTOPIXを大きく上回った。

日本株ファンドのリターンランキング（2025年度の1年間）

No	インデックス ／アクティブ	ファンド名称	運用会社	リターン (%)	純資産 残高(億円)
1	アクティブ	ジャパン半導体株式ファンド	アモーヴァ	110.5	195
2	日経半導体	eMAXIS 日経半導体株インデックス	三菱UFJ	105.1	189
3	アクティブ	半導体関連 日本株式戦略ファンド	三井住友TAM	96.4	315
4	アクティブ	情報エレクトロニクスファンド	野村	83.9	1,191
5	アクティブ	日本企業PBR向上ファンド	大和	78.3	486
6	アクティブ	小型ブルーチップオープン	野村	70.7	807
7	アクティブ	ロボ・ジャパン（円投資型）	野村	67.1	186
8	アクティブ	日本厳選プレミアム株式オープン（年2回決算型）	三菱UFJ	63.2	107
9	アクティブ	ノムラ・ジャパン・オープン	野村	61.7	2,974
10	アクティブ	三菱UFJ 日本株アクティブオープン	三菱UFJ	55.6	160

出所：QUICK資産運用研究所、対象は国内公募の追加型株式投信（ETF、レバレッジ型、為替取引のある通貨選択型を除く）のうち、純資産残高が100億円以上で日本株を主な投資対象とするファンド。純資産残高とリターンは2026年は3月末時点

国内追加型株式投信（除くETF）注目の日本株ファンドの組み入れ銘柄

リターンランキング4位の「情報エレクトロニクスファンド」は1984年、6位の「小型ブルーチップオープン」と9位の「ノムラ・ジャパン・オープン」は1996年、7位「ロボ・ジャパン（円投資型）」は2016年に設定された長いトラックレコード（運用実績）のあるファンド。それぞれで運用方針は異なるが、組み入れ上位には共通点もあり。フジクラ、古河電気工業、住友電気工業といった電線御三家への組み入れが目立つ。「ノムラ・ジャパン・オープン」では、古河電工は株価低迷期に待ち伏せして買い、フジクラは値上がり局面に飛び乗り、ファンドのリターンに大きく寄与したようだ。

<情報エレクトロニクスファンドの組み入れ上位10銘柄>

銘柄	業種	市場	純資産比
東京エレクトロン	電気機器	東証プライム	7.7%
フジクラ	非鉄金属	東証プライム	7.4%
古河電気工業	非鉄金属	東証プライム	7.0%
村田製作所	電気機器	東証プライム	6.7%
住友電気工業	非鉄金属	東証プライム	5.8%
三菱電機	電気機器	東証プライム	3.9%
富士通	電気機器	東証プライム	3.8%
ヒロセ電機	電気機器	東証プライム	3.7%
ディスコ	機械	東証プライム	3.5%
日本製鋼所	機械	東証プライム	3.4%
合計			52.8%

<小型ブルーチップオープンの組み入れ上位10銘柄>

銘柄	業種	市場	純資産比
古河電気工業	非鉄金属	東証プライム	7.0%
住友不動産	不動産業	東証プライム	3.6%
日本碍子	ガラス・土石製品	東証プライム	2.5%
INPEX	鉱業	東証プライム	2.4%
森永乳業	食料品	東証プライム	2.3%
TOPPANホールディングス	その他製品	東証プライム	2.1%
フジクラ	非鉄金属	東証プライム	2.0%
横浜ゴム	ゴム製品	東証プライム	2.0%
エクシオグループ	建設業	東証プライム	2.0%
大成建設	建設業	東証プライム	1.9%
合計			27.8%

<ノムラ・ジャパン・オープンの組み入れ上位10銘柄>

銘柄	業種	市場	純資産比
古河電気工業	非鉄金属	東証プライム	5.5%
三井物産	卸売業	東証プライム	3.6%
住友不動産	不動産業	東証プライム	3.5%
日本たばこ産業	食料品	東証プライム	3.4%
トヨタ自動車	輸送用機器	東証プライム	3.3%
三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	東証プライム	3.0%
オリックス	その他金融業	東証プライム	2.6%
村田製作所	電気機器	東証プライム	2.6%
INPEX	鉱業	東証プライム	2.6%
東京エレクトロン	電気機器	東証プライム	2.5%
合計			32.6%

<ロボ・ジャパン（円投資型）の組み入れ上位10銘柄>

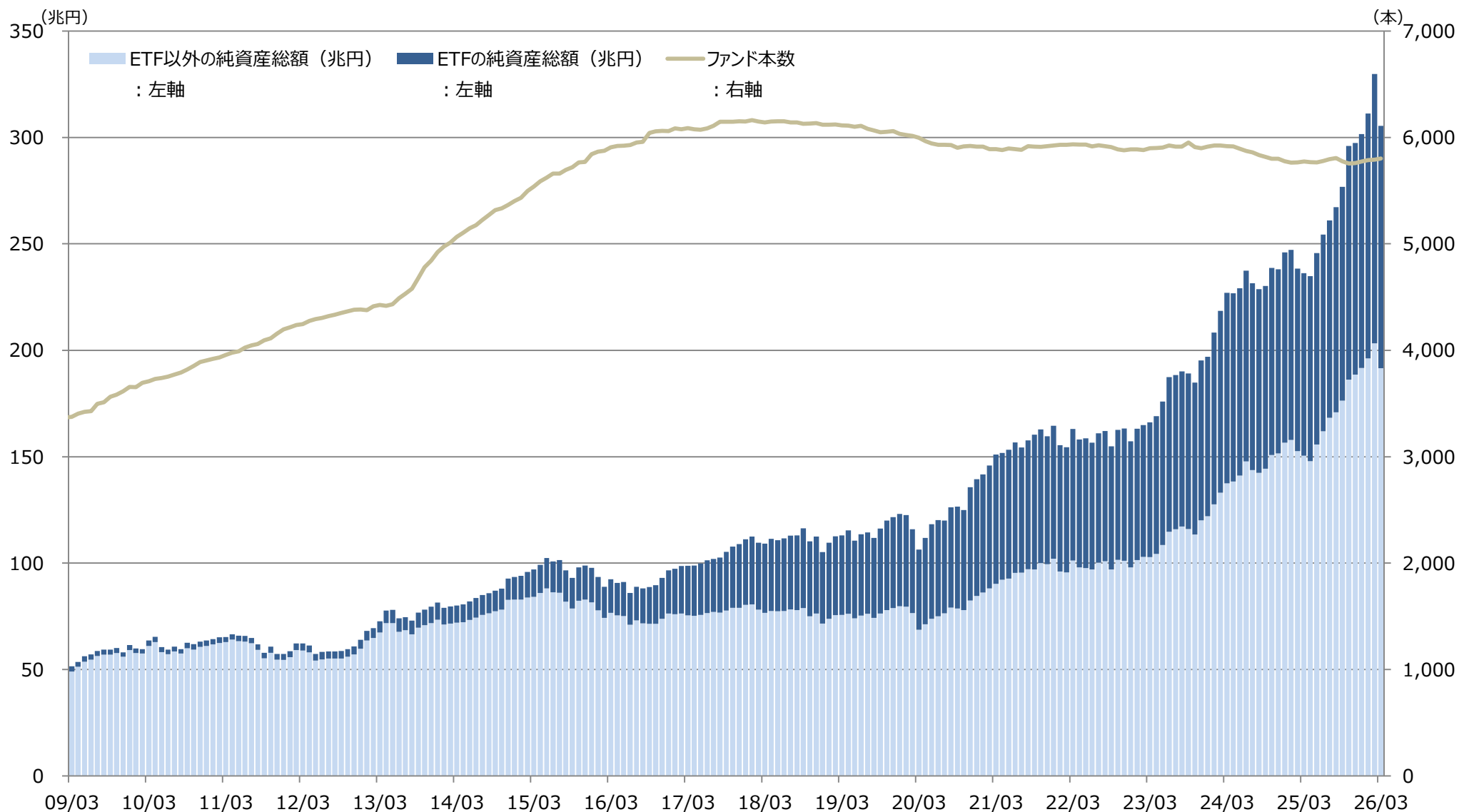
銘柄	業種	市場	テーマ	純資産比
古河電気工業	非鉄金属	東証プライム	AI・IoT	8.5%
フジクラ	非鉄金属	東証プライム	AI・IoT	4.8%
東京エレクトロン	電気機器	東証プライム	自動運転	4.3%
ファナック	電気機器	東証プライム	産業ロボット	4.2%
村田製作所	電気機器	東証プライム	AI・IoT	3.3%
NTT	情報・通信業	東証プライム	AI・IoT	3.2%
ディスコ	機械	東証プライム	自動運転	3.1%
SMC	機械	東証プライム	産業ロボット	3.1%
日本精工	機械	東証プライム	産業ロボット	2.8%
日本製鋼所	機械	東証プライム	産業ロボット	2.6%
合計				40.1%

出所：各ファンドの月次レポートより（2026年3月末時点）

(ご参考) 公募投信の純資産総額と本数の推移

2026年3月末時点：

- ・ファンド本数…5,801本（前月比+9本）
- ・純資産総額…305.47兆円（前月比▲24.33兆円）、比較可能な1989年以降で最大の減少幅。減少率（▲7.4%）は2020年3月以来の大きさ。



出所：資産運用業協会（旧投資信託協会）、日本銀行のデータをもとにQUICK作成、直近月はQUICK推計。※対象は国内公募の単位型株式投資信託、追加型株式投資信託、単位型公社債投資信託、追加型公社債投資信託。ETFの日銀保有分は営業毎旬報告の簿価ベースの数値。データは月次。▲はマイナス

ご留意事項

- 本資料は株式会社QUICK（以下、QUICK）が投資信託等に関する参考情報の提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。また、法令に基づく開示書類ではありません。
- 本資料は過去の一定期間の実績等を分析したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 本資料でQUICKは信頼できると判断した情報源からの情報およびQUICK自身の分析に基づく独自の見解を表明しておりますが、QUICKおよび情報源はそれらの情報および見解の正確性、完全性などを保証することはできません。
- 本資料を利用したことにより損害等を被った場合には、QUICKおよび情報源は一切責任を負いません。
- 本資料の内容は、様々な理由により事前の連絡なしに変更されることがあります。
- 著作権、知的所有権など一切の権利はQUICKまたは情報源に帰属します。許可なく複製、転載、引用することを禁じます。